

あなたをやさしくエスコートする...

# カワムラサイクルの電動車いす



## KE30シリーズ

### 取扱説明書



安全に関するご注意	2
1.同梱部品の確認	5
2.各部名称と取扱方法	5
3.組立方法	8
4.運転前の点検	9
5.運転のしかた	10
6.バッテリーの充電	15
7.お手入れと点検	19
8.故障かな?	20
9.仕様	21
10.車いすの主な乗り方	22
11.保証	23

はじめに  
使い方

点検・保証

運転に慣れるまでは、広く平坦な場所で十分な練習をしてください。  
安全を第一に考え、「あぶない!」と思われる場所はできるだけ避けて走るようにしましょう。

このたびはカワムラサイクルの電動車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

ご使用になる前に必ずお読みください。また、お読みになった後は大切に保管してください。



株式会社 **カワムラサイクル**

## 安全に関するご注意 ご使用になる前に必ずお読みください。

[表示マークの説明]

-  **警告** この表示は「人が死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
-  **注意** この表示は「人が障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。
-  **禁止** この表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

### 禁止

カワムラサイクルの電動カートは道路交通法の「身体障害者用車いす」に該当し、走行中は歩行者として取扱われます。従って「運転免許証」は必要なく、道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。また、大きく寸法の改造を行う場合には警察の確認が必要です。その際は販売店にご相談ください。

KE30 は電動カートです。電動カート以外の目的で使用しないでください。  
(車や荷物をけん引することは禁止されています。)

酒気帯び運転は操作を誤る危険性がございますので、絶対にお止めください。また、気分が優れないときも運転しないでください。

### 警告

電動カートは火気に近づけないでください。  
ボディーが変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、大変危険です。



踏み切り、川の端、手すりのない橋等は大変危険ですので、出来るだけ避けて運転してください。交通量の激しい道路や踏み切り等は介助者と一緒に走行されることをお勧め致します。

走行中に電源のスイッチを切らないでください。急停止して危険です。

後進の時は、周囲の安全をよく確認してゆっくりと運転してください。

改造・分解しないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。

車いすを物品運搬など車いす以外の目的に使用しないでください。

## 警告

座席シート部以外に腰掛けないでください。

携帯電話や PHS、トランシーバ等の通信機器から出る電磁波により、まれに周りの電気機器類に悪影響を及ぼす場合があることが知られています。万一電動カートがこの電磁波の影響を受けて停止したと思われる場合は、慌てずに一旦電源を切り、周りに携帯電話等を使用している人がいない（1.5m 以上離れている）ことを確認し、再度電源スイッチを入れ直し、3 秒数えてからゆっくりとアクセルバーを押して発進してください。また、高圧線やテレビ塔など強い電磁波が出ている場所での使用は避けてください。

大きな交差点では信号を一回待って横断してください。途中で信号が変わるおそれがあり危険です。

雨の日の運転は避けてください。雨水がボックス内に入ると操縦不能になる事があり、危険です。

## 注意

夜間の走行時は通行者や車から発見しにくくなります。充分にご注意ください。

回転している車輪に指を差し込まないように注意してください。

下記のようなところに電動車いすを放置しないでください。

- ・車道に近いところ
- ・人通りのあるところ
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・雨風の当たるところ
- ・火気のあるところ
- ・傾斜地

前進レバー・後進レバーは出来るだけゆっくり操作してください。急な操作を行なうと、急発進・急停止になり大変危険です。また急発進を繰り返し行なうと、モーターに過負担がかかり故障の原因につながります。

深い砂・砂利道・ぬかるみは避けてください。車輪がめり込んで動けなくなる事があり、故障の原因になります。

危険ですので二人乗りはしないでください。また、走行中に身を乗り出したり、足を出したりすると危険ですのでお止めください。

衣服等が車輪にからまないようにご注意ください。

## 注意

空気圧が低すぎると走行が不安定になります。

雪道は道路が滑りやすく大変危険ですので、運転をお止め下さい。

急な坂道を登り降りする事は避けて下さい。安全な登坂角度は10度までです。

急な斜面を横切るとは操縦が不安定になり、危険ですので避けて下さい。

急な坂道を連続して走行すると、急にブレーキが効いて動かなくなる時がありますが、これは回路ブレーカーが働いた為ですので、ブレーカーを押し込むと、再度運転することが出来ます。(ブレーカーが働く時は、能力を超えたこととなりますので、進路を変えてください。ブレーカーは後カバーの穴が開いている所にあります。)

突起物、障害物は避けて走行してください。

突起物、障害物を左右の車輪の間にくぐらせるような走行は避けて下さい。バッテリーやモーターを破損する恐れがあります。

ギア・モーター部より異常な音が出た場合はご使用を避け、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用されない時、またはカートから離れる時は、いたずら防止のためキーを抜いておくことをお勧め致します。

前カゴには3kg以上の荷物は入れないでください。

# 1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

キー	2 個	充電コード	1 本
前カゴ	1 個	転倒防止車輪	1 ペア
説明書	1 個	補足ビデオテープ	1 本

はじめに

# 2.各部名称と取扱方法

使い方



最高速度設定ダイヤル	<p>走行時の最高速度を設定できます。後進時の最高速度は、前進時の70%となります。</p> <p>ダイヤルを時計回りにまわして低速から高速へ速度を無段階(0～6km/h)に調整することができます。</p> <p>「MIN」の最低速から1、2、3、・・・9、10と徐々に速度が上がり、「MAX」のとき最高速度6km/hで走行します。</p>
バッテリーモニター	<p>バッテリーの残量を示します。</p> <p>残量の確認は平坦路を数分走行してから行います。 (発進時や登坂・段差では一時的にランプの点灯が減ることがあります。)</p> <p>冬期はバッテリーの性能が低下するため、モニターのランプが早く消えることがあります。</p>
電源スイッチ	<p>キーを差し込んで時計回りに90度まわすと電源が入ります。バッテリーモニターの点灯を確認してください。</p> <p>電源を切るときは反時計回りにキーをまわし、元の位置でキーを抜きます。</p>
充電コード差込口	<p>充電するときに充電コードを指し込みます。</p>
前進用(右)アクセルレバー	<p>手前に引くと前に進みます。</p> <p>レバーから手を放すと自動的にブレーキがかかります。</p> <p>レバーの引き加減で、0から設定最高速度の間で走行速度を調節できます。</p>
後進用(左)アクセルレバー	<p>手前に引くと後ろに進みます。</p> <p>レバーから手を放すと自動的にブレーキがかかります。</p> <p>レバーの引き加減で、0から設定最高速度の間で走行速度を調節できます。</p>
ヘッドライトスイッチ(青色)	<p>スイッチを押すとヘッドライト(前照灯)が点灯します。もう一度押すと消灯します。</p>
ホーン(警笛)スイッチ(黄色)	<p>スイッチ(黄色)を押すとホーン(警笛)が鳴ります。</p>
方向指示器	<p>曲りたい方向にボタンを倒すと方向指示灯が点滅します。解除する際には、元の位置(中央)に戻してください。</p>
駐車灯スイッチ(赤色)	<p>一時停止する際にボタンを押してください。方向指示灯がすべて点滅します。もう一度押すと消えます。</p>
座席シート回転レバー	<p>座席シートは右下の赤いレバーを上げながら、左右それぞれ90度回転します。</p>

 **警告** 運転するときは座席シートを元の位置に戻し、位置が固定されていることを確認してください。

座席シート前後調節レバー	<p>シート右前のレバーを上げながらシートの前後位置を調節します。レバーを離すと、その位置で固定できます。</p>
--------------	---

クラッチレバー

走行、手押しの切り換えができます。

レバーが電動側のときは電磁ブレーキがかかっており動きません。手押しするには後輪右側のクラッチレバー(赤色)を押し下げます。(手動)



**警告**

転倒・衝突の恐れがあります。危険ですのでクラッチレバーを下げた状態(手動の状態)では乗車しないでください。

坂道等ではブレーキが効かず事故につながる可能性があります。クラッチレバーを下げた状態(手動の状態)で放置することは止めてください。

後部転倒防止補助車輪

坂道での転倒防止用に車体後部に付属の補助輪を必ず取り付けてください。(梱包時にはカゴの中に入っています。)

肘掛け

乗降車時、上へ跳ね上げることができます。

肘掛けの内幅調整ノブ

座席シートの後側の肘掛け取付パイプの下にノブねじがついています。このノブねじを緩めて肘掛けの内幅を変えたり、取り外したりすることができます。



**警告**

ノブねじは必ずしっかりと締めてください。

ハンドル角度調整レバー

ハンドルの角度を 5 段階で調整できます。

ハンドルの支柱下部の角度調整レバー(赤色)を倒して固定ピンを外し、5 個のいずれかの穴に合わせるようにハンドルの角度を調整します。

角度が決まったら、レバーを引いて元に戻して固定します。



**警告**

ピンがしっかり固定されていることを確認してください。

ヘッドライト

のヘッドライトスイッチを押すと点灯します。ライトを手で動かすと角度を変えることができます。

前カゴ

カゴをハンドル部のフックに引っ掛けて下へ下げると固定できます。荷物を入れすぎるとハンドルが重くなります。

前カゴには 3kg 以上の荷物はいれないでください。

非常用ブレーキ

緊急時にレバーを握ってブレーキをかけてください。(手動です。)



**警告**

危険ですのでクラッチレバーを下げた状態(手動の状態)では乗車しないでください。転倒・衝突の恐れがあります。

坂道等ではブレーキが効かず事故につながる可能性があります。クラッチレバーを下げた状態(手動の状態)で放置することは止めてください。

### 3.組立方法

#### 【1】ハンドルを立てて固定します。

- ・ハンドルの角度を5段階で調整できます。
- ・ハンドルの支柱下部の角度調整レバー（赤色）を倒して固定ピンを外し、5個のいずれかの穴に合わせるようにハンドルの角度を調整します。
- ・角度が決まったら、レバーを引いて元に戻して固定します。

 **警告!!** ピンがしっかり固定されていることを確認してください。

#### 【2】カゴを取り付けます。

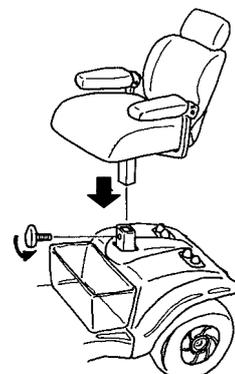
カゴをハンドル支柱前部の金具に引っ掛けるようにして取り付けてください。

#### 【3】バックミラーを固定します。

バックミラーの取付部のボルトを緩め、バックミラーを見やすい位置に調整し、ボルトをしっかりと締めてください。

#### 【4】座席シートを固定します。

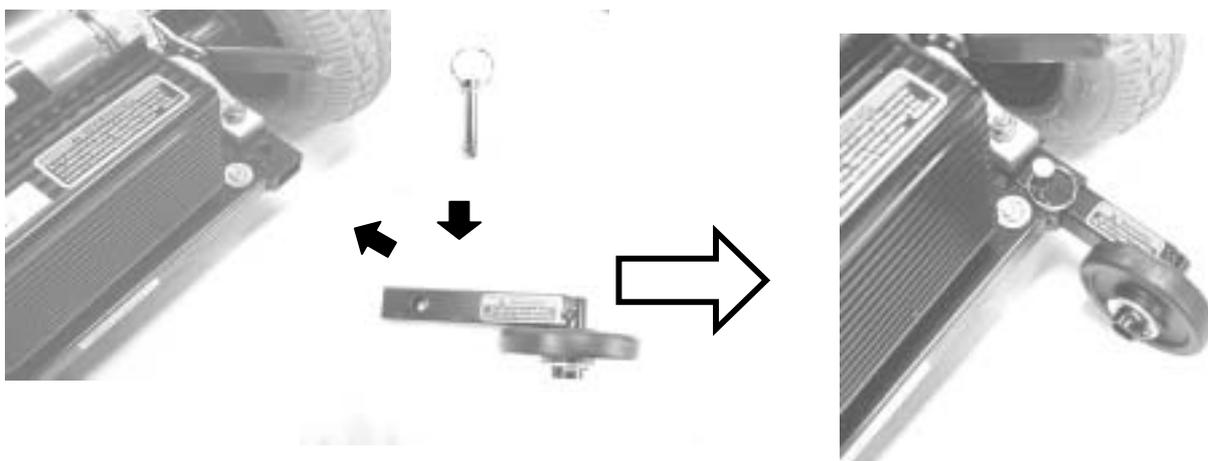
座席下の角パイプを車体受部に差し込み、お好みの高さでピンを差し込み、その上に赤い回転レバーを引きながら、座席を取付けてください。



使  
い  
方

#### 【5】後部転倒防止補助車輪を取り付けてください。

転倒防止補助車輪を車体に差し込み、穴を合わせてピンを差し込んでください。



## 4.走行前に点検してください。

走行する前には必ず次の各部を点検し、異常がないことを確認してください。異常があった場合にはご使用をお止めいただき、お買い上げの販売店にご相談ください。

### <車体まわり>

バックミラー 反射器	汚れや損傷はありませんか？
タイヤ	亀裂や損傷はありませんか？ タイヤはすり減っていませんか？ 釘、石、その他の異物が刺さったり、噛みこんだりしていませんか？ 空気は入っていますか？(エアータイヤのみ)
クラッチレバー	クラッチレバーは正常に作動しますか？
ねじ、ノブ類	ねじ、ノブ類の緩みはありませんか？

使  
い  
方

### <座席に座って>

ハンドル	左右スムーズに動きますか？
バックミラー	見やすいように位置の調整はしましたか？
バッテリーモニター	残量表示の目盛が全て点灯していますか？
ホーン(警笛)	ホーンは鳴りますか？
方向指示器	右、左、それぞれ点滅しますか？
駐車灯	方向指示のランプが全て点滅しますか？

### <走行して>

アクセルレバー	引く、離すの操作で走行、停止しますか？
モーター	モーターに異常音はないですか？ 電磁ブレーキは正常に作動しますか？

### <その他>

前日までの使用時に異常があった箇所を確認します。

## 5. 運転のしかた

### < お出かけの前に・・・ >

座席シート、ハンドルがしっかりと固定されている事を確認してください。

クラッチレバーを上にした状態(電動の状態)にあつて、車輪が動かない事を確認してください。

必ず、平らな場所で乗車してください。

バッテリーが十分に充電されている事を確認してください。



危険ですのでクラッチレバーを下げた状態(手動の状態)では乗車走行しないでください。転倒・衝突の恐れがあります。

坂道等ではブレーキが効かず事故につながる場合があります。クラッチレバーを下げた状態(手動の状態)で放置することは止めてください。

坂道や斜面での乗車は転倒する危険があります。

### < 出発しましょう! >

#### 発進について

座席シートに深く腰掛けて正しい姿勢で座ってください。

最高速度設定ダイヤルを最低速「MIN」に合わせ、電源スイッチにキーを差し込み時計回りにいっぱいにまわします。これで電源が入ります。

この時バッテリーモニターが点灯します。ランプ点灯が 1 個でも不足しているときは、安全のため充電をしてからお使いください。

右の前進用アクセルレバーを右手で徐々にゆっくり手前に引くと前に進み、はなすと電磁ブレーキが作動し停止します。慣れるまでこの操作を繰り返し練習してください。

左の後進用アクセルレバーを左手で徐々にゆっくり手前に引くと後に進み、はなすと電磁ブレーキが作動し停止します。



乗り降りの時は、必ず電源スイッチを切ってください。誤って、前後進レバーに当たりカートが動くと危険です。

急にアクセルレバーを引くと急発進急停車の原因になり危険です。ゆっくりと操作してください。

## 注意

急発進はモーターへ必要以上に負担がかかって故障の原因となります。徐々にゆっくりと発進しましょう。

前進・後進を急激に繰り返したり、短時間に何度も繰り返すと、モーターへ必要以上に負担がかかって故障の原因となります。前進・後進の切り替えはきちんと停止した状態で行ってください。

## 走行について

### 通常の走行

アクセルレバーの引き加減で加速・減速ができます。

最高速度は、最高速度設定ダイヤルにて無段階調整ができます。

走行時の最高速度を設定できます。後進時の最高速度は、前進時の 70% となります。

ダイヤルを時計回りにまわして低速から高速へ速度を無段階(0 ~ 6km/h)に調整することができます。

「MIN」の最低速から 1、2、3、…9、10 と徐々に速度が上がり、「MAX」のとき最高速度で走行します。

運転に慣れるまで、および屋内や狭い場所、曲がり角での走行は「MIN」から 3 までの間に合わせて低速で走行してください。

## 警告

走行中に身を乗り出したり、足を出したりすると転倒や足をはさむ危険性があります。走行中に電源を切らないでください。急停止し転倒する恐れがあります。

### 坂道での走行

坂道を走行するときは平らな道を走るときよりも危険がともないますので、充分注意する必要があります。

### 上り坂での走行

安全のため、上り坂での走行は傾斜角度約 10 度までとしてください。また、急な凸凹道は車輪が穴にはまったりハンドルをとられたりすることがありますので、その道は避けて緩やかな道を走行してください。

### 下り坂での走行

下り坂の場合もゆっくりと慎重に運転してください。最高速度設定ダイヤルを「MIN」から 3 までの間(低速)に合わせ、前方に注意しながらゆっくり下ります。途中で停止したい場合はゆっくりと徐々に右手をアクセルレバーからはなします。

## 警告

坂道に対してできるだけまっすぐに上り下りしてください。  
急ハンドルをきったり、斜めに走ったり、横切ったりすると転倒する危険がありますので絶対に避けてください。  
坂道での後進は運転が不安定になり、転倒したり障害物に衝突したりすることがありますので絶対にしないでください。  
10 度以上の急坂走行や 5 度以上の傾斜面での走行はハンドルをとられやすく転倒する危険がありますので避けてください。

### 段差の乗り越え

やむを得ず、段差を乗り越える場合、8cm までの段差としてください。  
段差のあるところでは、1m くらい手前で最高速度設定ダイヤルを「5」前後に合わせ、車体を段差に対して直角にゆっくりと乗り越えます。斜めになって乗り越えようとするともハンドルをとられて安定性を失って危険です。  
前輪が段差を乗り越えようとするときは衝撃がありますので十分注意してください。また、段差を下りるときは衝撃を和らげるためさらにゆっくりと走行してください。

使  
い  
方

## 警告

8cm 以上の段差を乗り越えないでください。転倒の恐れがあります。

## 注意

段差を乗り越えるために前進・後進を急激に繰り返したり、短時間に何度も繰り返したりすると危険なばかりでなく、モーターに必要な以上の負担がかかって故障の原因となります。前進・後進の切り替えはきちんと停止した状態で行ってください。

### 溝を渡るとき

溝を渡る場合は、平坦で幅 12cm までの溝としてください。  
段差を乗り越えるときと同様、溝に対して車体を直角にし速度を落としてゆっくり渡ってください。

## 警告

12cm 以上の溝を乗り越えないでください。転倒の恐れがあります。

## 注意

溝を渡るために前進・後進を急激に繰り返したり、短時間に何度も繰り返したりすると危険なばかりでなく、モーターに必要以上の負担がかかって故障の原因となります。前進・後進の切り替えはきちんと停止した状態で行ってください。

### 後進するとき

後進するときは身体をひねった姿勢となるため、前進するときよりもさらに注意が必要となります。

まず、最高速度設定ダイヤルを「MIN」から3までの間に合わせます。後方の安全を確認しながら、左手で後進用アクセルレバーをゆっくり徐々に手前に引きます。このとき、ブザーが鳴ります。

### 曲がり角では

カーブを曲がる時は後輪がひっかからないよう余裕を持ってハンドルをきります。建物に入るときや、狭い場所でUターンするときなどは、一旦停止し、最高速度設定ダイヤルを「MIN」から3までの間(低速)に合わせ、ハンドルを行きたい方向にきり、アクセルレバーをゆっくり戻し、スピードを落とします。こうすることで車体を安定させながら安全に運転できます。

## 警告

屋内や狭い場所、曲がり角では低速(「MIN」から3まで)でゆっくり走行します。

### 停車するとき

引いているアクセルレバーをはなすと、自動的に停止します。発進のときと同様にアクセルレバーはゆっくりと操作してください。

## 注意

駐停車は坂道や斜面を避け、必ず平道で行ってください。  
制動距離は走行条件によって変わります。停止するときは余裕を持って行ってください。

## 降りるとき

- 1.キーを反時計回りに回して電源を切り、キーを抜きます。  
このときバッテリーモニターのランプは消えます。
- 2.速度設定ダイヤルを「MIN」から3までの間(低速)に合わせます。

### 注意

キーを付けたままにしておくと無断で使用されたり、イタズラをされる恐れがあります。必ずキーを抜いてください。

キーは大切に保管してください。

キーがないと走行できません。

## 手で押して移動するとき

平坦な場所で、電源スイッチを切ってから操作してください。

クラッチレバーを下に下げた状態(手動の状態)にして、ハンドルをしっかり持ち、手動ブレーキに指を掛けゆっくりと押してください。停止するときは、手動ブレーキをご使用ください。手押しした後は、必ずクラッチレバーを電動に切り替えてください。

使  
い  
方

### 注意

手で押して移動するときは、必ず電源スイッチを切ってください。

運転を再開する時は、クラッチレバーが電動になっているかを確認してください。

手で押して移動しているときは、非常ブレーキを使用して停止してください。

## 6. バッテリーの充電

KE30 は充電式バッテリーでモーターを駆動する電動カートです。十分充電の出来ていない電動カートでは、平地でスピードが上がらず登坂力も落ち、走行中に止まる恐れがあります。

バッテリーモニターの表示位置を目安に、充電が必要な時は直ちに充電してください。

バッテリーモニターランプが 8 個点灯している状態が満充電です。

走行中にバッテリーの残量が少なくなってくると、右から順次ランプが 1 個ずつ消えます。

走行中に 3 個以上消えるときはバッテリー切れになるおそれがありますのですみやかに充電してください。



### バッテリーに関する注意事項

1. 発進、停止の繰り返しや上り坂、段差、溝乗り越えなどが多いとバッテリーの消費電力が増えるため、通常より走行できる距離が短くなります。
2. バッテリーは消耗品です。正常な使い方をしていても、充放電を繰り返しているうちに徐々に劣化し、走行時間・距離が短くなります。
3. いつもよりバッテリーモニターのランプの減り具合が早くなったときや、走行できる距離が短くなったときは、バッテリーの交換時期です。早めに専用バッテリーに交換してください。そのまま使われると急激に走行距離が短くなることがあります。
4. バッテリーはシールドタイプですので、バッテリー液の補充の必要はありません。
5. 冬期は気温の低下(特に 10 以下の場合)によりバッテリーの働きが弱くなるため、走行できる距離が短くなります。
6. バッテリーの充電は必ず専用充電器で行い、火気のない風通しの良いところ、雨露のかからないところで充電してください。
7. 充電は必ず充電完了まで行ってください。充電の中断を繰り返すとバッテリーの劣化が早まります。
8. バッテリーは自己放電があるため、ご使用にならないときでも 1 ヶ月に 1 度程度充電してください。
9. 充電器部分に物を置いたり、冷却の邪魔にならないようご注意ください。

## 充電について

購入後初めて使用する前に必ず充電してください。

帰ってきたときに、走った時間が 30 分、距離にして 3km くらいなら充電は次回にします。それ以上のときは充電します。

終日使って、走行中にバッテリーモニターのランプが 1 個以上消えている状態になったらすぐに充電してください。

長時間使用しないと自然に放電しますので、使用する前に必ず充電してください。

### 注意

坂道や冬期、使用状況や使用年数により走行時間・距離が短くなります。帰るときのことを考え、余裕を持って走行してください。

使  
い  
方

## 充電のしかた

キーをまわして電源スイッチを切り、キーを抜きます。

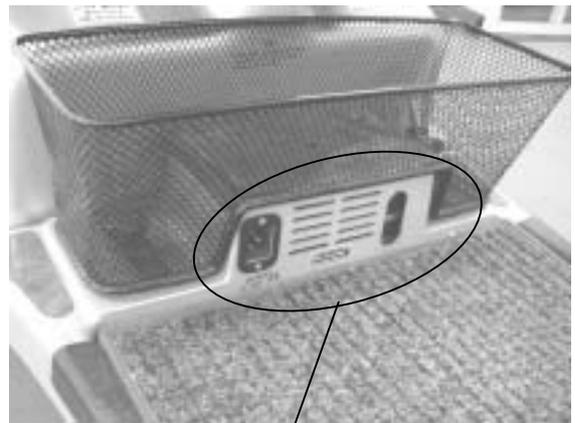
座面下カゴの下にチェーンでつながれている赤いキャップを外し、付属の充電コードを差し込んでください。

もう一方をコンセントに差し込むと、電源ランプ（赤）点灯、充電ランプ（緑）が点滅し、充電を開始します。

充電中は充電ランプが点滅しています。充電するにつれて、点滅速度が速くなっていきます。

充電ランプの点滅が止まり、点灯状態になると充電完了です。

バッテリーの残量により、充電にかかる時間は異なります。



### ⚠️ 注意!!

専用のバッテリーおよび充電器以外は絶対に使用しないでください。

### ⚠️ 危険!!

充電中にバッテリーに火気を近付けないでください。引火・爆発する恐れがあります。手や車体が濡れているときには乾くまで触らないでください。感電の恐れがあります。



バッテリーを清掃するときは、乾いた布で拭かないでください。静電気が発生し爆発する恐れがあります。

## 充電時間

バッテリーの残量により、充電にかかる時間は異なりますが、通常4～8時間程度で完了します。また、ご使用量が多いと12～16時間かかることもあります。

## 満充電時の走行距離

新品のバッテリーで体重75kgの人が平らな道を6km/hで走行した場合、約30kmとなります。

ただし、実際の走行時は条件が異なるため、あくまで目安としてください。

## バッテリーの交換

電源スイッチを切り、キーを抜きます。

座席シートを赤い回転レバーを引きながら持ち上げて取り外します。

シート取付パイプ固定ノブネジを緩め、高さ調整ピンを抜き、シート取付パイプを抜きます。

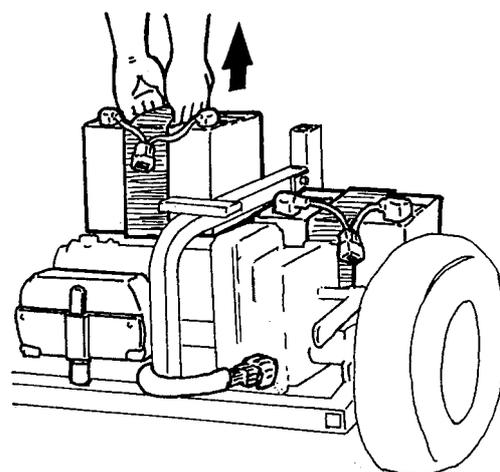
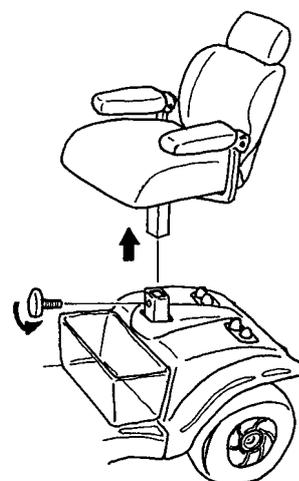
後ろからボディのカバーを持ち上げ外します。  
(面ファスナーで取り付けられています。)

バッテリーにつながっている赤と黒の接続コネクタをそれぞれ外します。

バッテリーを固定しているベルトを外し、バッテリーを両手で持ち上げます。

新しいバッテリーを用意し、バッテリーコードを付け替えて(+、-にご注意ください。)正しい向きで載せ、固定ベルトで確実に固定してください。

同じ色同士のコネクタに接続してください。  
組み立て時は、逆の手順で行ってください。



点検・保証

### 注意

工具等でバッテリーの(+)端子と(-)端子を短絡させないでください。  
使用済みバッテリーはそのまま廃棄せず、販売店に相談してください。  
バッテリーを交換するときは指をはさまないように注意してください。

## 7. お手入れと点検

### 日頃のお手入れと保管

ホコリや泥などで汚れた場合はそのまま放っておかず、早めにやわらかい布などで拭き取ってください。汚れがひどいときは中性洗剤をお使いください。

#### 注意

電気部品に水などをかけないでください。電気部品の故障やモーターの回転不良などの原因になる恐れがあります。

シンナー、ベンジン、ガソリン等で拭かないでください。

使用しないときは風通しの良い車庫や屋根のあるところに保管してください。風雨・湿気の多いところでは保管しないでください。

長時間保管する場合は、定期的(1 ヶ月に1回程度)に充電してください。放っておくとバッテリーの寿命低下の原因となります。

また、クラッチレバーは必ず上に上げた状態(電動の状態)で保管してください。

### 日頃の点検

タイヤはバッテリーと同様、消耗品です。タイヤの溝がなくなってきたら、早めに取り替えてください。

空気入り車輪が装着されている場合、タイヤの空気圧を定期的に点検してください。空気圧が不足している状態で走行するとバースト(破裂)などでタイヤに損傷を与えたり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

タイヤの空気圧の目安： タイヤを押してもやや硬い程度  
(軟式野球ボール程度の硬さ)

年に一度はバッテリー交換をしてください。使用しなくても、自己放電して電気容量が減っていきます。減りすぎると、いくら充電しても元の性能は戻らなくなり、バッテリーが使用不能になってしまいますので、ご注意ください。

その他、詳しくは9ページの「4. 走行前に点検してください」をご参照ください。

#### 警告

改造は事故・故障の原因となりますので、絶対にしないでください。

## 8. 故障かなと思ったら・・・

次のような症状がみられたら、次の表に従い点検を行ってください。

それでも異常がみられる場合はただちに使用を中止し、販売店にご連絡ください。

症状	点検方法	対処方法
走らない	電源スイッチは入っていますか？	キーを差し込んで時計回りにまわしてください。
	電源スイッチを入れてから3秒以上経過していますか？	電源スイッチを一旦切り、もう一度入れ直してください。
	バッテリーモニターのランプは8個全て点灯していますか？	バッテリーを充電してください。
	クラッチレバーは下がって(手動)になっていませんか？	上に上げて(電動)にして)ください。
ハンドルが重い または軽い	タイヤの空気圧は正常ですか？	お近くの自転車販売店、オートバイ販売店、ガソリンスタンド等でお確かめください。
走行時間が短くなった	充電が完了するまで充電しましたか？	充電が完了(充電器のランプ点灯)するまで充電してください。
	バッテリーを交換したのは1年以上前ですか？	バッテリーを交換してください。
充電できない	充電器の電源ランプ(赤色)は点灯していますか？	コンセントの差し込みをお確かめください。
	充電差込プラグはしっかり接続されていますか？	プラグの差し込みを確認してください。

## 9. 仕様

車種	電動カート KE30
制御方法	アクセルレバーによる無段階制御方式
モーター定格出力	24V × 440W × 1個
駆動方法	後二輪直接駆動方式（デフ付）
制御方法	モーター発電制御及び全自動電磁ブレーキ方式
操舵方法	ハンドルによる前輪操舵方式
バッテリー容量(5時間率)	12V 36Ah × 2個（完全密閉型）
充電器	自動充電器
前進最高速度	6 km / h
後進最高速度	4.2 km / h
平地連続走行距離	約 30km （但し、バッテリーが初期性能の時）
充電時間	4～16時間
最大登坂角度	10度
段差乗越え高さ	約 8 cm
座幅	45cm（肘当て内幅 37～55cm）
座角度	約 4度
前輪	10インチ（260×85mm）
後輪	10インチ（260×85mm）
重量	86kg（バッテリー含む）
全長×全幅×全高	1190×620×1050 mm

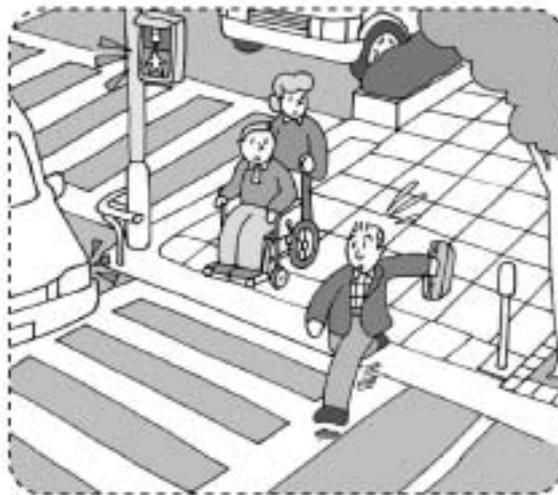
上記仕様は改良等により、予告なしに変更する場合があります  
KE30の基本性能はJIST9203-1999の基準に適合しています。

## 10.車いすの主な乗り方 <各部の点検・保守方法>

### 警告

タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。  
いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。  
車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。  
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



- 「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- 信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、  
走行を心掛けましょう。

# 1 1.保証

## 保証書

この商品には保証書を別途添付しております。保証書（返送用登録はがき）に所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に弊社へご返送ください。

保証期間はご購入日より 1 年間です。

## 補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

## 保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

## 保証の適用除外となる場合

- ( a ) ご使用による消耗品および取扱不注意による破損  
例) タイヤの磨耗およびバッテリー、パンク、シートの破損等
- ( b ) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
- ( c ) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
- ( d ) 保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
- ( e ) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損

地球の環境保護のため、  
廃棄するときはそのまま放置しないで  
各自治体の取り決めにしたがってください。

地球の環境保護のため、廃棄するときにはそのまま放置しないで  
各自治体の取り決めにしたがってください。



■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックスビル 5階	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722
■神戸工場 ■神戸第二工場 ■いなみの工場			

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。